

シーシーエス株式会社 2010年7月期第2四半期 決算説明会

2010年3月11日(木)

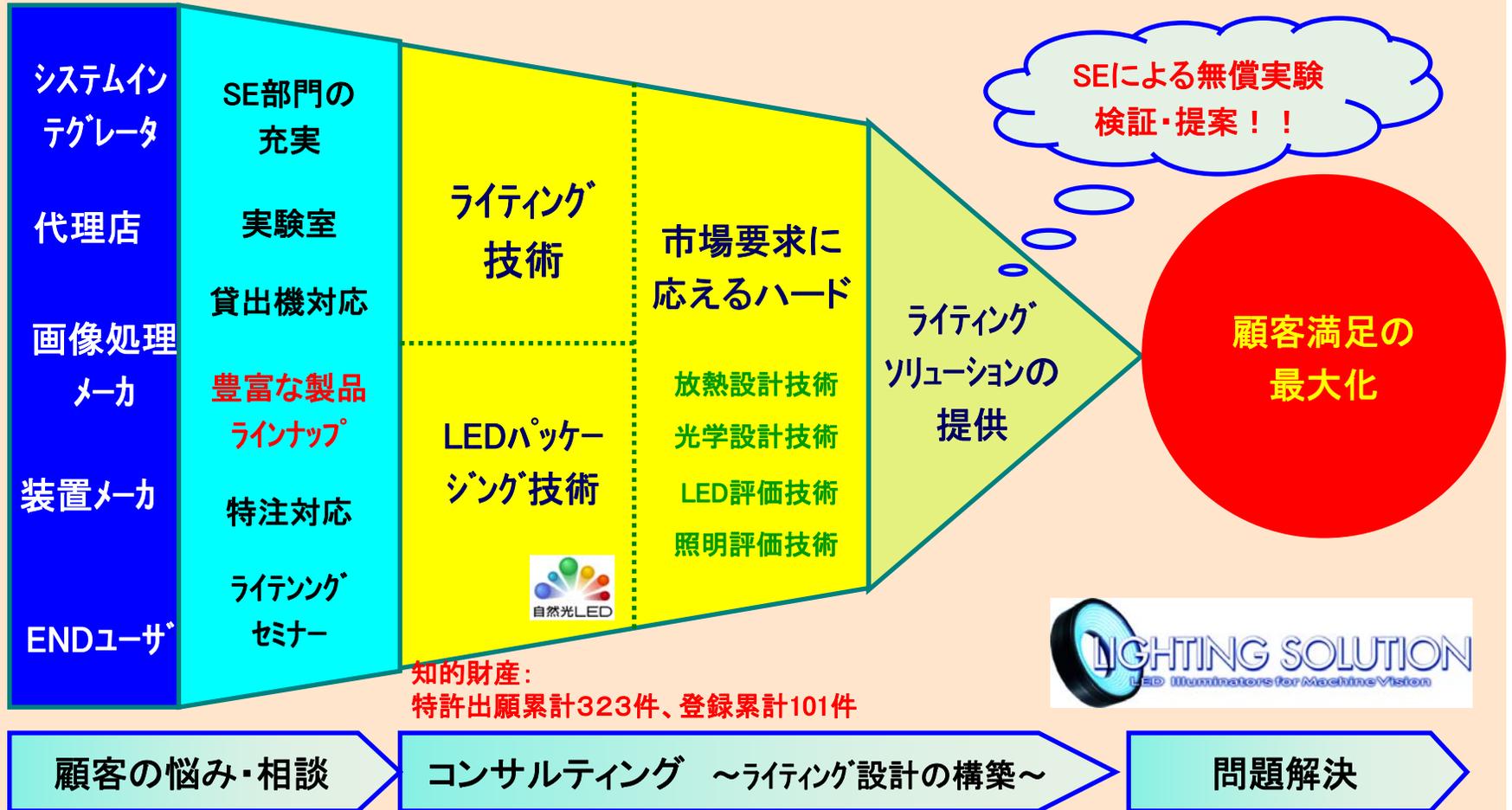
ジャスダック 証券コード6669

目次

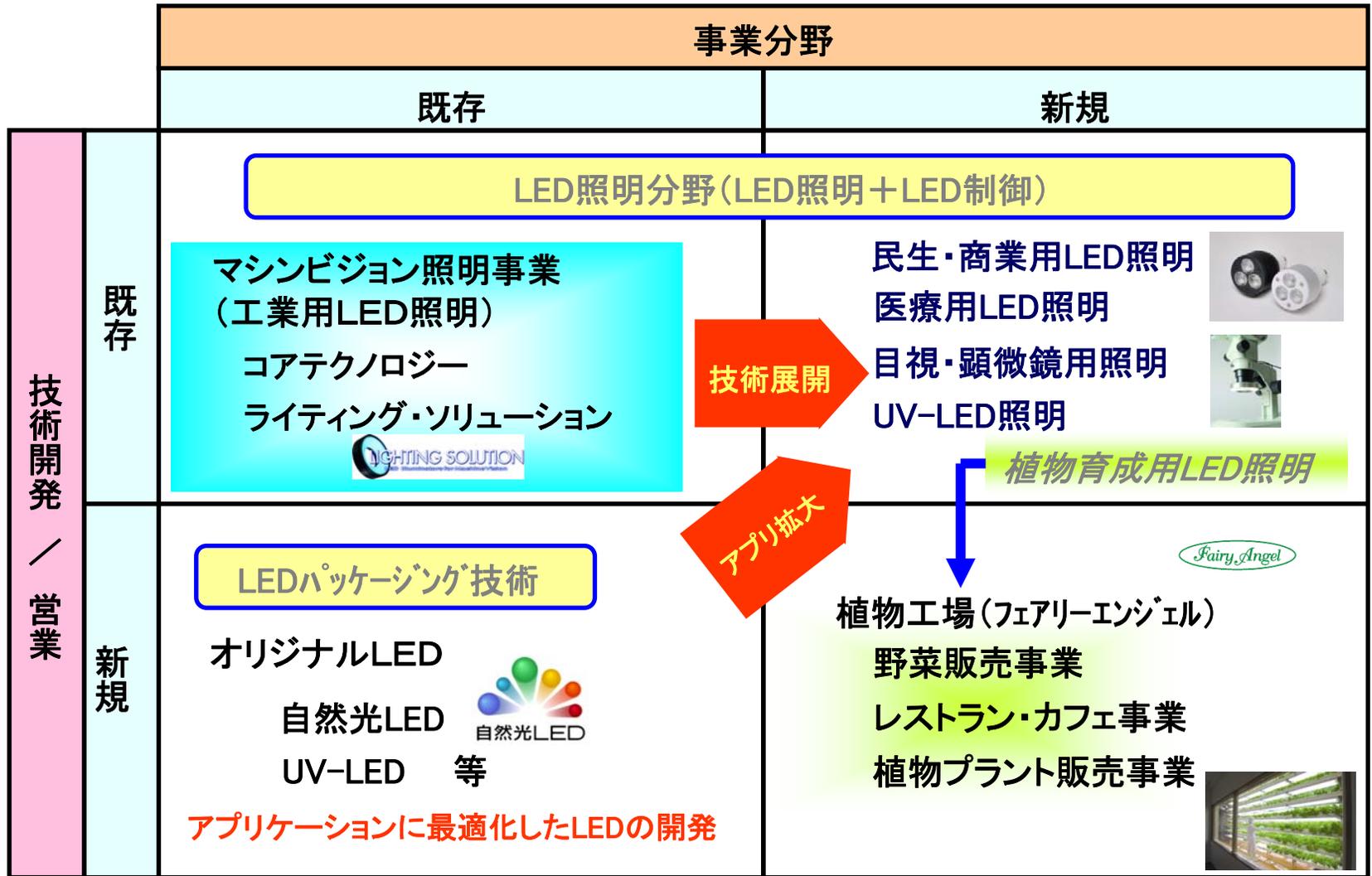
1. 当社ビジネスの強み
2. 第2四半期業績(連結)
3. 通期計画(連結)
4. 重点施策におけるこれまでの成果
5. 今後の事業戦略

当社ビジネスの強み

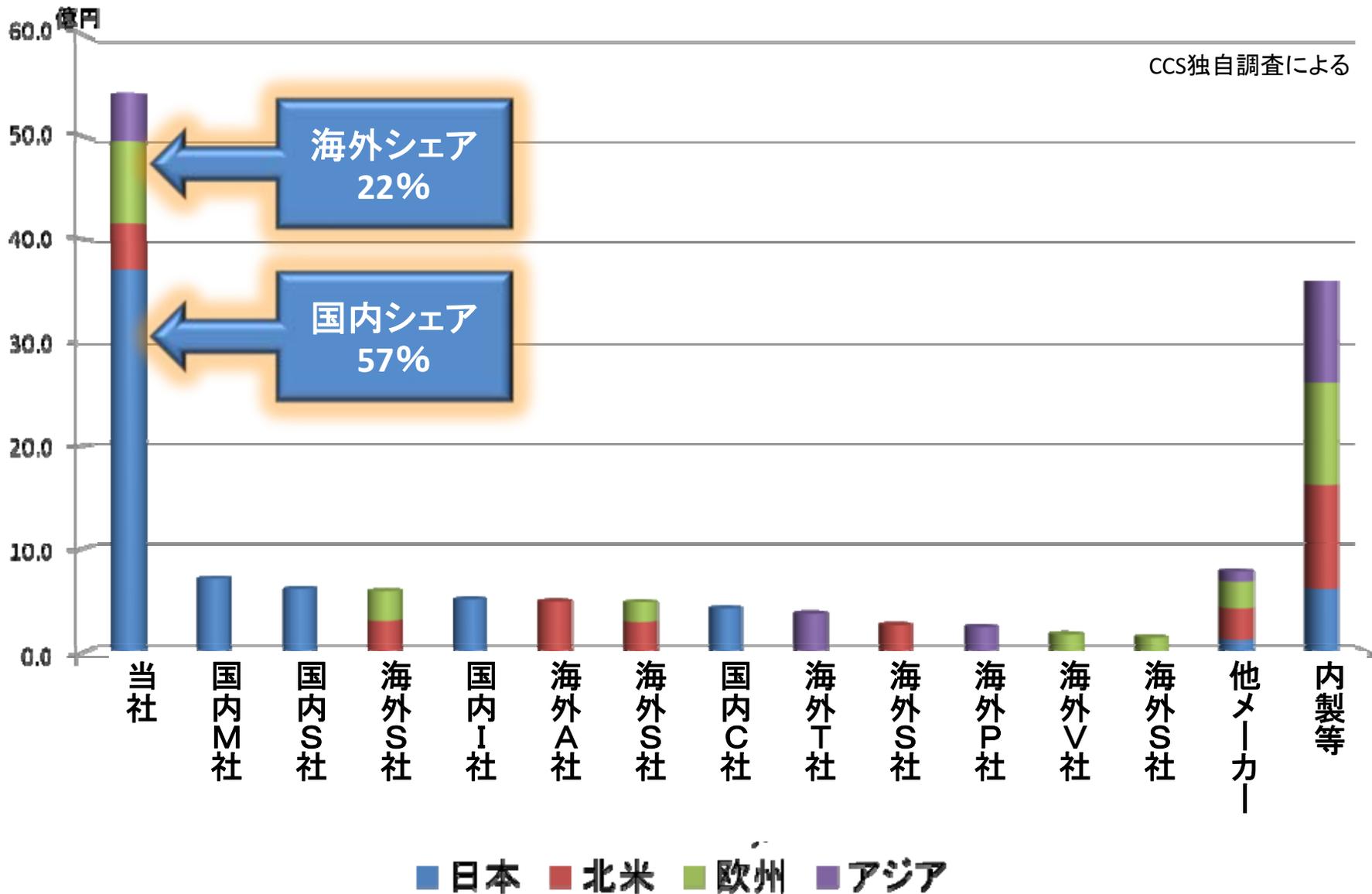
マシンビジョン用LED照明事業のビジネスモデル



シーシーエスの事業領域



当社のポジショニング (LED光源・電源・オプション)



京都から世界へ

～京都発 光の世界企業を目指す～

□他社に先駆けて画像処理用LED照明を海外へ輸出

□海外売上高比率は2004年7月期以降25%以上

参考資料：LED開発の歩み

1962年代	赤色と黄緑色が開発
1970年代	赤色と黄緑色が実用化
1993年	青色が製品化
1995年	純緑色の開発 光の三原色がそろそろ
1996年	白色が開発
現在	発光効率の向上 高演色性白色の開発

1993年 シーシーエス株式会社を設立

1994年 画像処理用LED照明事業に特化

1999年 アメリカに関係会社を設立

2003年 上海に駐在員事務所を設立

2004年 シンガポールに関係会社を設立

2004年 ベルギーに関係会社を設立

2008年 深センに駐在員事務所を設立

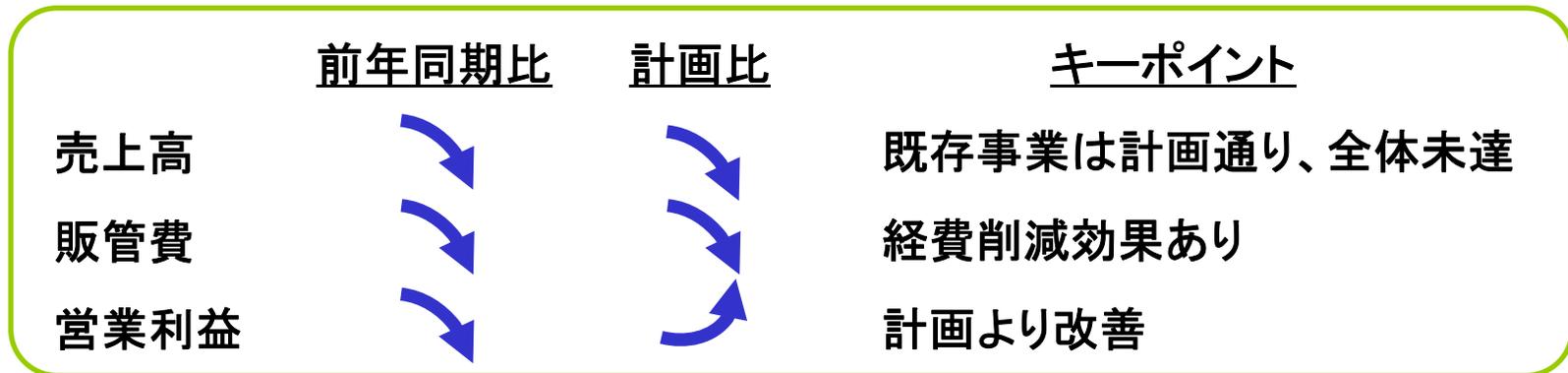


2010年7月期第2四半期業績 (連結)

2010年7月期第2四半期連結業績

(単位:百万円) ()内:対売上比

	2009/7 上期	2010/7 上期		変動	
	実績 [A]	期初計画 [B]	実績 [C]	前年同期比[D] [C] - [A] [C] / [A]	計画比[E] [C] - [B] [C] / [B]
売上高	1,984	2,190	1,951	-33 (98%)	-239(89%)
売上総利益	1,254(63.2%)	1,184(54.1%)	974(49.9%)	-280 (78%)	-210(82%)
販管費	1,426(71.9%)	1,634(74.6%)	1,397(71.6%)	-29(98%)	-237(85%)
営業利益	-172(-8.7%)	-450(-22.1%)	-423(-21.7%)	-251(-)	27 (-)
経常利益	-141(-7.1%)	-485(-22.1%)	-450(-23.1%)	-309(-)	35 (-)
当期純利益	-87(-4.4%)	-300(-13.7%)	-397(-20.3%)	-310(-)	-97 (-)



事業別の状況

(単位:百万円)

【売上高】	2009/7 上期	2010/7 上期		変動	
	実績 [A]	期初計画 [B]	実績 [C]	前年同期比[E] [C] - [A] [C] / [A]	計画比[F] [C] - [B] [C] / [B]
■LED照明事業	1,984	1,965	1,826	-158(92%)	-139(93%)
■野菜事業	-	150	93	-	-57(62%)
■その他事業	-	75	32	-	-43(43%)

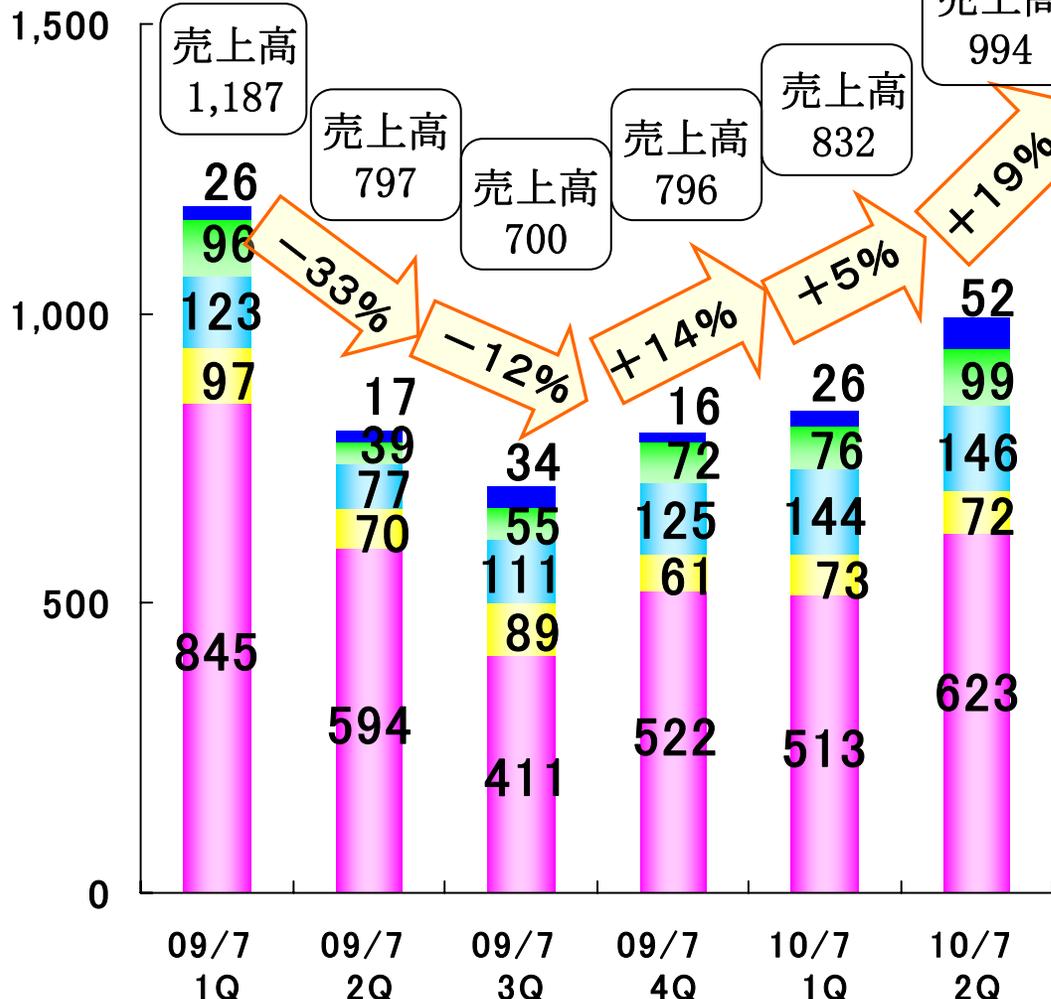
〔2009/7下期売上(実績)は、野菜事業65百万、その他事業62百万でした。〕

【営業利益】	2009/7 上期	2010/7 上期		変動	
	実績 [A]	期初計画 [B]	実績 [C]	前年同期比[E] [C] - [A] [C] / [A]	計画比[F] [C] - [B] [C] / [B]
■LED照明事業	-172	-	-118	54(-)	-
■野菜事業	-	-	-201	-	-
■その他事業	-	-	-42	-	-

〔2009/7下期営業損失(実績)は、野菜事業-199百万、その他事業-48百万でした。〕
〔その他事業とは、レストラン事業と植物育成プラント事業の合算です。〕

LED照明事業・地域別売上高(連結)

(単位:百万円)



■ 日本(マシンビジョン)
 ■ 北米(マシンビジョン)
 ■ 欧州(マシンビジョン)
 ■ アジア(マシンビジョン)
 ■ 日本(新規分野)

主な需要分野	足元のマクロ状況	当社の状況
半導体	凍結していた設備投資が再開(2009年6月頃/アジア伸び大)	欧州における受注が回復(2009年8月頃/アジア向け)
電子	徐々に設備投資が開始(各社時期は異なる)	特定分野の受注が回復(携帯電話、液晶、PC等)
電池関連(太陽電池等)	増産に伴い設備投資が上向き	第1四半期に引き続き好調
三品(食品、薬品、化粧品)	安定した設備投資	安定的に受注、横ばい
自動車	ハイブリッド車/次世代自動車の開発	一部回復の兆し

決算キーポイント

- マシンビジョン用LED照明事業におきまして
2008年秋から継続していた電子・半導体業界、自動車業界の
設備投資の在庫調整の状況が海外において先行して回復。
国内は徐々に回復傾向。
- 子会社フェアリーエンジェル(2008年12月に連結子会社化)の
野菜事業(93百万)、その他の事業(32百万)の売上が追加
- 効率化とコスト削減によりLED照明事業における赤字が縮小
(54百万縮小)
- 子会社フェアリーエンジェルの野菜事業およびその他の事業に
おける赤字が加算(2億43百万)

貸借対照表(連結)

(単位:百万円)

資産	09/7 期末	10/7 第2Q	負債・純資産	09/7 期末	10/7 第2Q
現金及び預金	1,378	1,050	流動負債	1,899	2,003
受取手形・売掛金	841	971	固定負債	2,226	2,175
たな卸資産	734	685			
その他	188	112			
流動資産合計	3,141	2,818	負債合計	4,126	4,179
有形固定資産	3,101	2,978	資本金	460	460
無形固定資産	311	283	資本剰余金	575	575
投資その他の資産	114	103	利益剰余金	1,660	1,222
			自己株式	△159	△159
			為替換算調整勘定	△73	△94
			新株予約権	29	-
			少数株主持分	49	-
固定資産合計	3,526	3,365	純資産合計	2,542	2,004
資産合計	6,668	6,183	負債・純資産 合計	6,668	6,183

□手元流動性
比率

4.18ヶ月
⇒3.23ヶ月

□自己資本比
率

36.9%
⇒32.4%

2010年7月期通期計画 (連結)

2010年7月期計画(連結)

～期初計画～

(単位:百万円) ()内:対売上比

	2009/7上期	2010/7上期	変動	2009/7通期	2010/7通期	変動
	実績 [A]	期初計画 [B]	前期比[C] [B] - [A] [B] / [A]	実績 [D]	期初計画 [E]	前期比[F] [E] - [D] [E] / [D]
売上高	1,984	2,190	206(110%)	3,608	5,550	1,942(154%)
LED照明事業	1,984(100%)	1,965(89.7%)	-19(99%)	3,480(96.5%)	4,660(84.0%)	1,180(134%)
野菜事業	-	150(6.8%)	-	65(1.8%)	570(10.3%)	505(877%)
レストラン事業	-	50(2.3%)	-	60(1.7%)	110(2.0%)	50(183%)
プラント事業	-	25(1.1%)	-	2(0.1%)	210(3.8%)	208(10500%)
売上総利益	1,254(63.2%)	1,184(54.1%)	-70(94%)	2,046(56.7%)	3,192(57.5%)	1,146(156%)
販管費	1,426(71.9%)	1,634(74.6%)	208(115%)	2,961(82.1%)	3,067(55.3%)	106(104%)
営業利益	-172(-8.7%)	-450(-22.1%)	-278(-)	-915(-25.4%)	125(2.3%)	1,040(-)
経常利益	-141(-7.1%)	-485(-22.1%)	-344(-)	-950(-26.3%)	50(0.9%)	1,000(-)
当期純利益	-87(-8.7%)	-300(-13.7%)	-213(-)	-784(-21.7%)	130(2.3%)	914(-)

2010年7月期計画(連結)

～上期実績および修正計画～

スライド15とともに
ご覧ください。

(単位:百万円) ()内:対売上比

	2009/7上期	2010/7上期	変動	2009/7通期	2010/7通期	変動
	実績 [A]	実績 [B]	前期比[C] [B] - [A] [B] / [A]	実績 [D]	修正計画 [E]	前期比[F] [E] - [D] [E] / [D]
売上高	1,984	1,951	-33(98%)	3,608	4,480	872(124%)
LED照明事業	1,984(100%)	1,826(93.6%)	-158(92%)	3,480(96.5%)	4,085(91.2%)	605(117%)
野菜事業	-	93(4.8%)	-	65(1.8%)	320(7.1%)	255(492%)
レストラン事業	-	31(1.6%)	-	60(1.7%)	65(1.7%)	15(125%)
プラント事業	-	0(0%)	-	2(0.1%)	10(0.2%)	8(500%)
売上総利益	1,254(63.2%)	976(50.0%)	-278(78%)	2,046(56.7%)	2,370(52.9%)	324(116%)
販管費	1,426(71.9%)	1,397(71.6%)	-29(98%)	2,961(82.1%)	2,810(62.7%)	-151(95%)
営業利益	-172(-8.7%)	-423(-21.7%)	-251(-)	-915(-25.4%)	-440(- 9.8%)	475(-)
経常利益	-141(-7.1%)	-450(-23.1%)	-309(-)	-950(-26.3%)	-520(-11.6%)	430(-)
当期純利益	-87(-8.7%)	-397(-20.3%)	-310(-)	-784(-21.7%)	-560(-12.5%)	224(-)

事業別・分野別売上高 進捗の状況

売上高
5,602

売上高
3,608

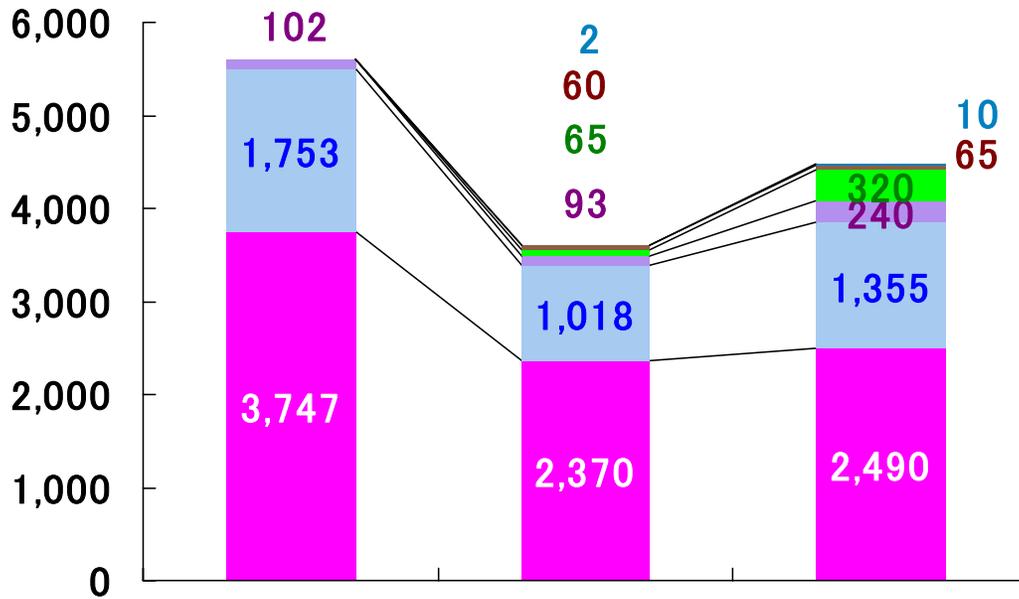
売上高
4,480

(124%)

2010/7 2Q時点の
進捗率(修正計画比)

()内:前期比

(64%)



■ プラント事業

■ レストラン事業 — 48%

■ 野菜事業 — 29%

■ 新規分野 — 33%

■ 海外(マシンビジョン照明) — 45%

■ 日本(マシンビジョン照明) — 46%

売上高
1,951

2010/7 2Q実績

(単位:百万円)

2010年7月期重点施策に おけるこれまでの成果

マシンビジョン照明分野における成果

2010年7月期重点施策[1]:マシンビジョン照明分野における更なる事業拡大



LED光源ボックス「PFB-20SW」の導入加速

背景	<p>既存のラインでハロゲン光源ボックスを使用されているが、以下のような問題点があり、LED光源ボックスが注目される。</p> <ul style="list-style-type: none">・寿命が短い⇒メンテナンスコストがかかる・発熱量が大きい⇒温度上昇が品質に影響する場合がある	当社の優位性	<ul style="list-style-type: none">・高出力(放熱構造、光エネルギーの効率化)・小型(検査装置への組み込みがしやすい、工場ラインに設置しやすい)
----	---	--------	---



ライン照明の導入順調

背景	<p>ライン照明はハロゲンと蛍光灯が主流であったが、LEDの発光効率が向上するにつれ、各社が2008年ごろからLEDライン照明を市場投入し始める。</p>	当社の優位性	<ul style="list-style-type: none">・独自の光学設計技術により、高均一度を実現・ソリューション提案が充実(実験設備と専門チームを設置し、お客様のニーズに対応できる)
----	---	--------	---

新規分野における成果

2010年7月期重点施策〔2〕:新規分野でのマーケット創造

民生・商業分野

店舗用照明「LEDランプ」を新発売(2009年11月) ～商業施設用LED照明事業への第一弾～

【導入実績】餃子の王将一号店(京都四条大宮店)



メディカル分野

医療機器製造販売業ならびに医療機器製造業の 許可取得(2009年10月)～医療分野へ本格参入へ

植物育成プラント事業における成果

2010年7月期重点施策〔3〕: 植物工場関連のビジネスモデル確立

プラント事業

コンテナ野菜工場の海外輸出決定・中東カタールへ



2010年1～3月は
日本で実験、
2010年6月に
出荷予定

(株)フジワークと人材育成および野菜工場運営 受託事業に関して業務提携を合意

2010年4月から開始
予定

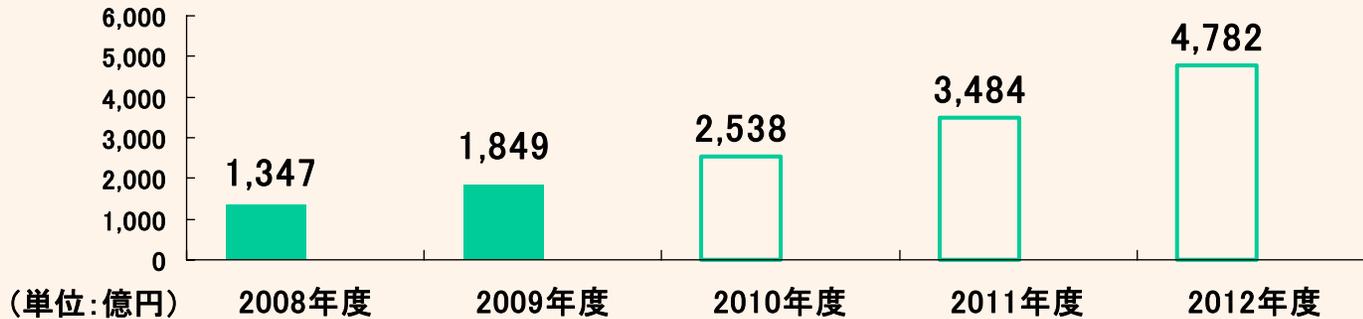
野菜販売事業

大手GMSへの展開

今後の事業戦略

LED市場の成長予測と課題

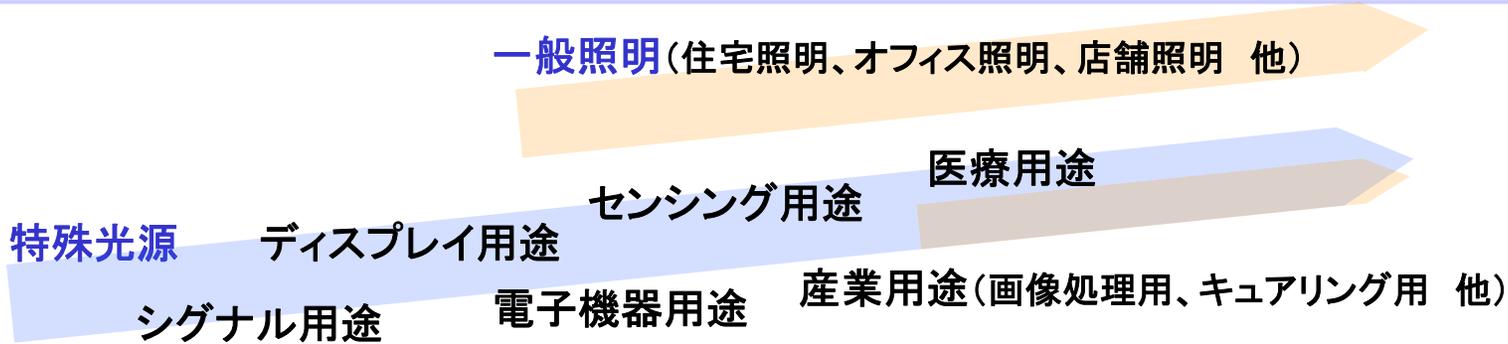
白色LED照明の世界市場規模〔グラフは野村総合研究所の発表データをもとに作成〕



年率平均
37.3%増

市場規模

用途の拡大



用途拡大

要求スペック

発光効率

輝度

寿命

演色性

色温度

コンパクト性

デザイン性

技術革新

規格化へ

1. マシンビジョン分野での優位性を活かして営業強化

事業戦略	ねらい	効果
①LED光源ボックス「PFB-20SW」の積極提案 営業強化	環境とコスト削減を同時に解決	ハロゲン光源ボックスからLED光源ボックスへの置換えが促進／工場全体の入替える場合も
②ラインセンサ用照明案件の提案強化 LEDのメリットを訴求ソリューション提案強化	ラインセンサ用照明のメリットを活かして現場の問題解決	LEDのメリットを活かして精度の高い検査が可能／ラインセンサにおけるLEDの普及に貢献
③新製品の投入 より明るく、より小型化	お客様のニーズに合った製品を提供	検査の高速化および精度向上、省スペース化を実現
④海外ビジネス強化 主要顧客との関係強化 販売エリアの拡大	販売網の構築により海外ビジネスを拡大	海外におけるシェア拡大へ

2.自然光LED搭載照明の商品化に注力する

アパレル

美術館

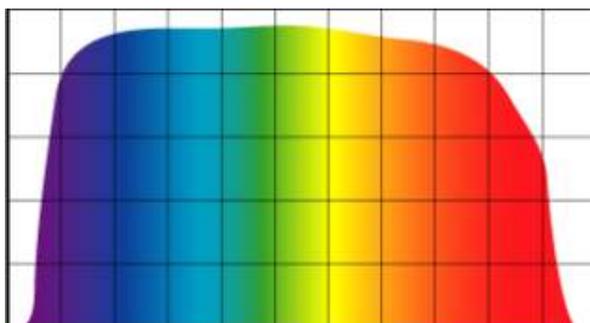
商業施設の商品ディスプレイ用、ショーケース用照明

美術館・博物館用照明

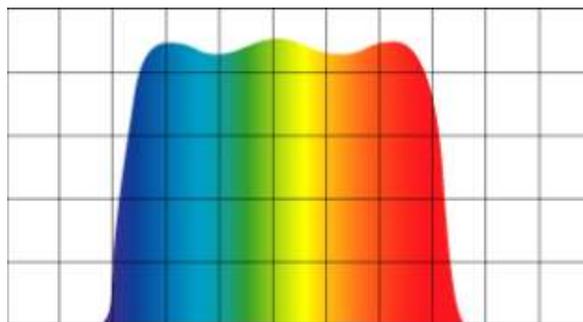


シーシーエスのLEDデバイス技術

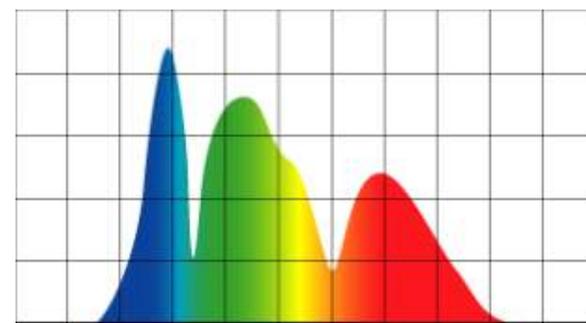
太陽光に近い波長／対象物を傷めない



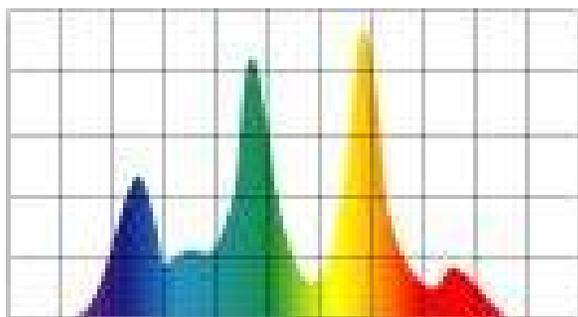
太陽光 (Ra=100)



シーシーエスの自然光LED
(平均演色評価数 Ra=98)

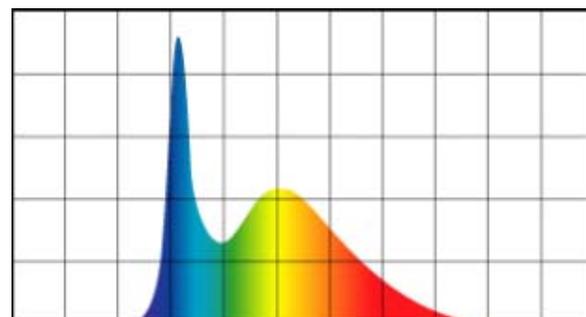


他社の演色LED (Ra=92)



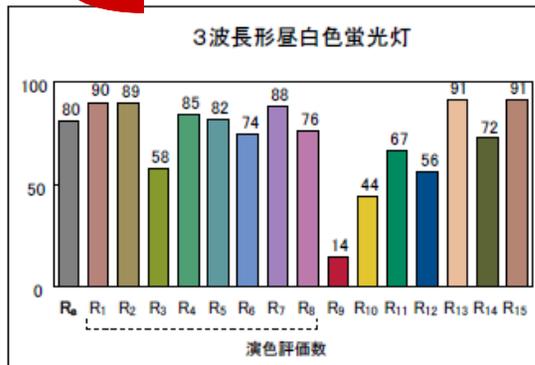
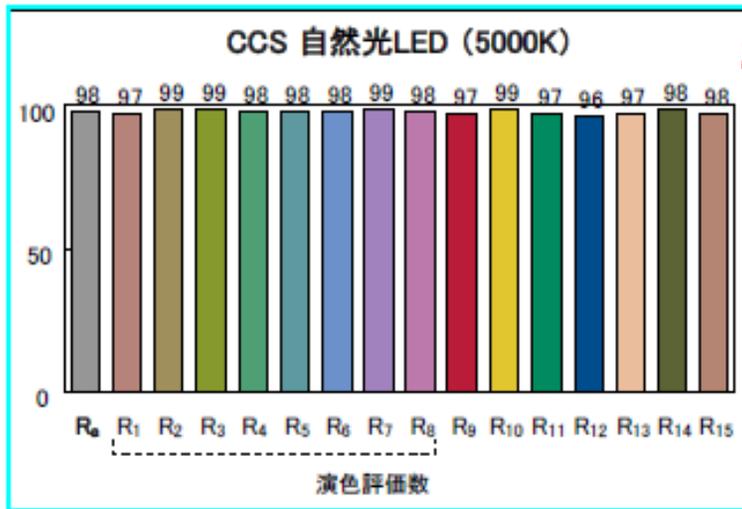
3波長蛍光灯 (Ra=70)

- ・太陽光に近い波長である。
- ・紫外線と赤外線は含まない。



従来の白色LED (Ra=70)

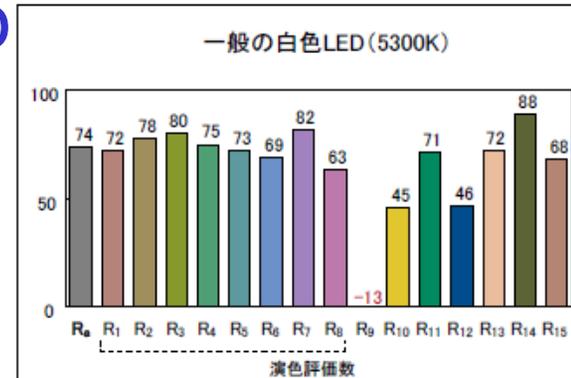
シーシーエスのLEDデバイス技術 業界最高の演色性



3波長蛍光灯 (Ra=70)

シーシーエスの自然光LED (平均演色評価数 Ra=98)

・JIS規格で定義される色を平均98まで再現できる光である。



従来の白色LED (Ra=70)

自然光LEDのマーケットをつくる

当社がねらう用途

自然光LEDを用いると
こんなメリットがあります

1. 商業用

店舗用

(百貨店の化粧品売場、花屋、
ブランドショップなど)



太陽光の下での色味を確認
できる

美術館、博物館などの
芸術品・重要文化財



作品を傷めない
本来の色味を鑑賞できる

2. 顕微鏡・目視検査用



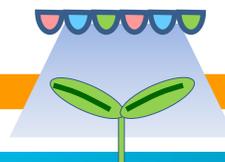
目にやさしい、演色性が高い

3. 医療用



正確に観察することができる

4. 植物工場用



植物に必要な光を照射できる

3.植物育成プラント事業の採算性改善への取組み

子会社フェアリーエンジェルの事業戦略

事業領域	事業内容	改善策
①野菜販売事業	全国約400店舗のスーパーおよび百貨店にて「てんしの光やさい」のブランドで販売	販売店舗における充足率の向上 新たな販売チャネル構築 工場野菜の認知度向上策
②レストラン・カフェ事業	植物工場を地下に併設するレストラン(京都市北区)とカフェ(滋賀県大津市)をアンテナショップとして経営	集客のためのPR強化 コスト効率化
③植物プラント販売事業	国内でミニミニタイプから中型までの野菜工場の案件に対応 海外はコンテナ型から大型へと展開	お客様のニーズにあった提案により成約率アップ (海外については三菱化学が中心となり、シーシーエスとの協業で対応)

新たな光産業を創出し、光の世界企業を目指す

バイオ・アグリ分野

- ・研究向け
- ・植物工場向け



メディカル分野

- ・病院向け



新規事業

新たなマーケットの創造

目視・顕微鏡分野

- ・工場向け
- ・研究所向け



民生・商業分野

- ・店舗向け
- ・美術館・博物館向け



主力事業
マシンビジョン照明事業
(工業用LED照明)

オリジナルLEDデバイス

新技術の確立

ライティングソリューション

コア技術の活用

参考資料

光を科学し、社会に貢献する

Creative Customer Satisfaction
クリエイティブ カスタマー サティスファクション

お客様の満足を高めるための技術と
製品をひたむきに追求し、
企業活動を通じて社会の役に立ちたい

沿革

- 1992 創業
- 1993 シーシーエス株式会社設立
- 1994 画像処理用LED照明事業に特化
- 1999 CCS America Inc.(100%子会社)を設立(ボストン)
- 2000 東京営業所を開設(品川区高輪台)
- 2001 本社移転(現在の本社)
- 2003 上海事務所を開設(中国 上海市)
- 2004 CCSロジスティックセンターを開設(京都市伏見区)
ジャスダックに上場
RDV(S)PTE LTD社を子会社化(シンガポール)
CCS Europe NV(100%子会社)を設立(ベルギー)
- 2005 植物育成実験プラントを稼動(千葉県野田市)
名古屋テストングルームを開設(名古屋市西区)
- 2007 東京営業所を拡充(8階増床)
生産拠点と物流拠点を統合し、生産センターを開設(京都市下京区)
植物育成実験プラントを譲渡
仙台テストングルームを開設(宮城県仙台市青葉区)
- 2008 LED光源による省エネ型植物工場の共同研究(フェアリーエンジェル社を連結子会社化)
- 2009 Singaporeの子会社をCCS Asia PTE LTD.へ商号変更

人と地球にやさしい世界企業を目指す

当社は既存分野にとどまらず、様々な分野で
人にやさしく、地球環境にやさしい
光ビジネスを展開・拡大していきます。

<事業領域>

新規事業

バイオ・アグリ分野
メディカル分野
目視・顕微鏡分野
民生・商業分野

主力事業

マシンビジョン照明事業
(工業用LED照明)

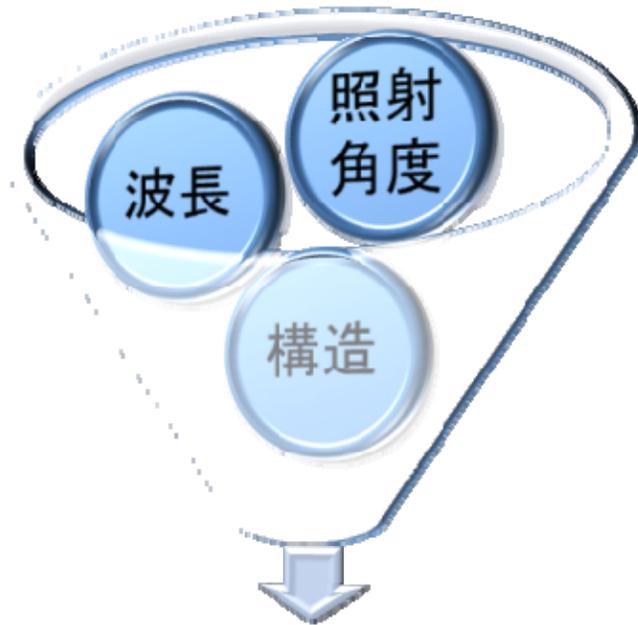


画像処理用LED照明のリーディングカンパニー (マシンビジョン)



LEDを集めることによって、照明として利用できることに着目。創業より16年間に約400機種種の標準照明、その10倍の約4,000種類の特製仕様照明を開発製造。

シーシーエスのライティング・ソリューション



光の性質による、
“光を当てる方法”

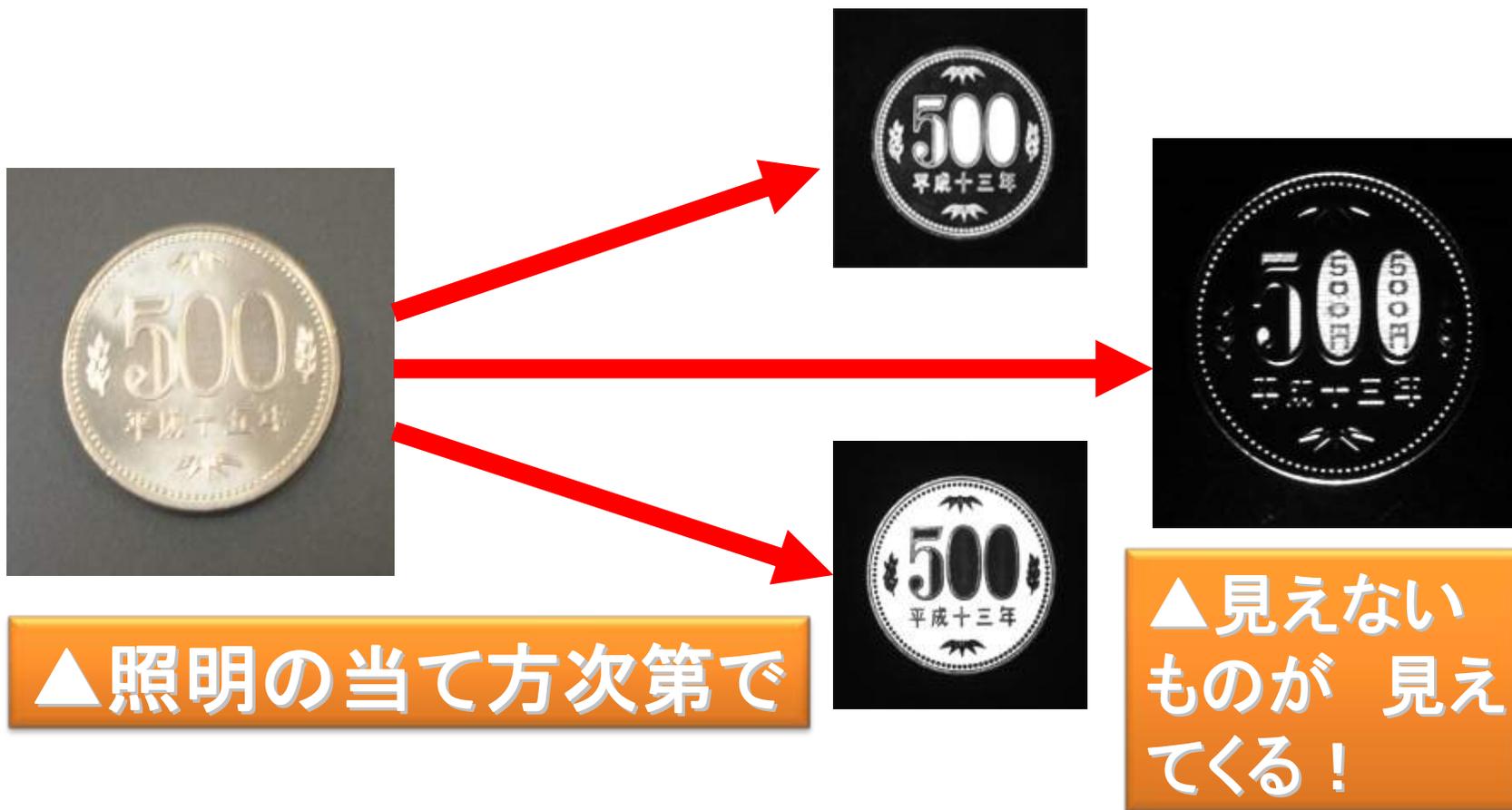
他の光源では実現
できないことを可能
にする。

画像処理検査の
可能性と安定性を
飛躍的に向上。

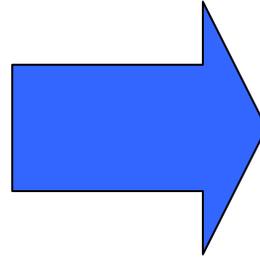


CCSの最大の強み

“光を当てる方向”（照射角度）を変えると見え方が変わる

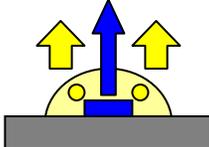
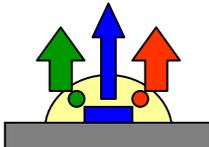
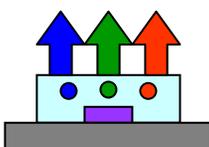


“特定の色の光”（波長） を変えると見え方が変わる



※使用したサンプルワークは当社にて加工したものであり、
本来の品質・性能によるものではありません。

シーシーエスのLEDデバイス技術 ～他社の白色LEDと シーシーエスの自然光の違い～

方式	模式図	利点	欠点
青LED + 黄色蛍光体			<ul style="list-style-type: none"> ・低演色性 ・目へのリスクが高い
青LED + 赤、緑蛍光体		<ul style="list-style-type: none"> ・演色性がある程度高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・目へのリスクが高い
紫LED + 赤、緑、青 蛍光体		<ul style="list-style-type: none"> ・極めて高い演色性 ・眼へのリスクが小さい 	<ul style="list-style-type: none"> ・高コスト

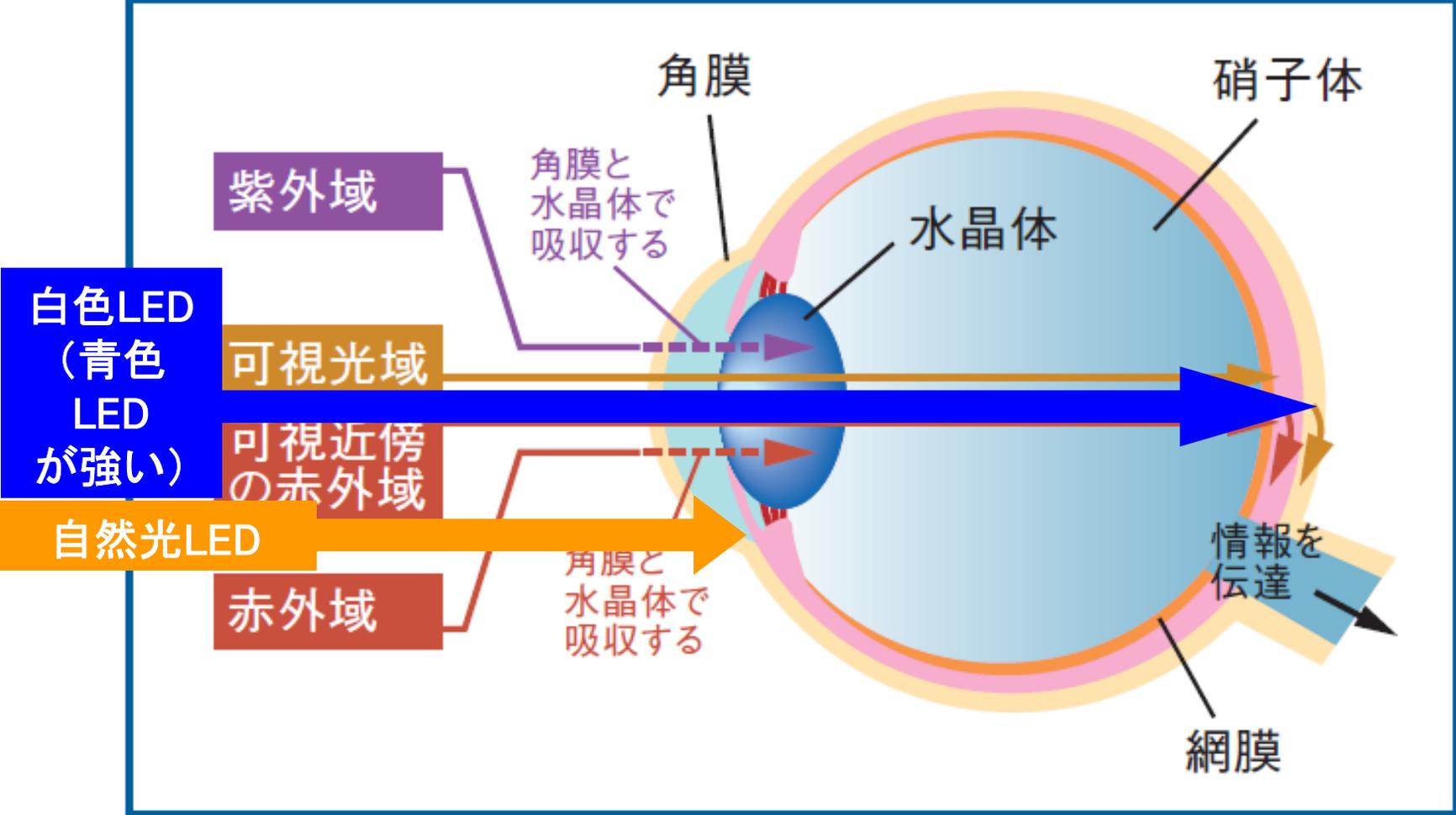
460nm

405nm



さらに、自然光LEDは目にやさしく疲れにくい光である

目の構造



《注意事項》 本説明会にて提供した情報につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。

(ジャスダック、証券コード:6669)

<http://www.ccs-inc.co.jp>

管理本部 経理財務グループ

広報IRセクション

TEL (075)415-8291 FAX(075)415-7724

京都市上京区烏丸通下立売上ル

桜鶴円町374番地